

第 350 回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時：平成 26 年 9 月 8 日 (月) 18 : 00

場所：大阪大学医学部講義棟 B 講堂

テーマ：「術前栄養状態が手術に与える影響

～やせも肥満も外科医にとっては大変」

国立病院機構大阪医療センター 外科 山本和義先生

厚生労働省 国民健康・栄養調査 (平成 24 年) によると、日本人における BMI; 25kg/m²以上の「肥満」人口は男性では 29.1%、女性では約 19.4%、一方 BMI ; 18.5kg/m²未満の「やせ」人口は男性で 4.2%、女性で 11.4%と報告されている。外科手術において「肥満」は手術難易度が上がるだけでなく、冠動脈疾患や動脈硬化、糖尿病などの併存疾患を有している症例も多いため、手術時間・出血量、術後合併症の増加につながる。「やせ」は低栄養と関連し、特に癌の手術においてはより進行した癌が多くなるため手術侵襲も大きくなり、術後合併症の増加と関連が言われている。しかし、これらについて本邦における大規模なコホート調査は行われていなかった。2011 年より各外科系学会が連携し、「National Clinical Database(NCD)」という、Nationwide なデータベースシステムが始動し運用されている。この NCD のデータベースを用いて、消化器外科・心臓血管外科の 13 術式 289,312 例のデータから「肥満」と「やせ」が手術成績に与える影響について、手術時間、輸血率、手術死亡率の面から検討した全国調査の結果を紹介する。また、大阪医療センターで行った胃癌手術を例に、BMI ごとの術後合併症発生率や詳細についても検討を行った。外科手術までの限られた時間の中で、「肥満」「やせ」に対応し、改善させることは難しいが、現在行われている取り組みについても紹介する。

世話人：消化器外科 II 土岐祐一郎

E-mail : ydoki@gesurg.med.osaka-u.ac.jp

次回、第 351 回は、金川武司先生のお世話で平成 26 年 10 月 20 日(月)に開催予定です。